

令和6年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

入賞作品集



目次

令和6年度「平和について」ポスター・作文コンテスト . . . 2

ポスターの部（小学校6年生）入賞者

市長賞「～守りたい命があふれてる～ NO WAR」 小和田小学校 ^{たかぎ} 高木 ^{しゅんた} 駿汰 . . . 3

議長賞「みんなにしあわせを」 室田小学校 ^{ざいい} 材井 ^{こと} 心都 . . . 3

教育長賞「平和・希望・愛」 小出小学校 ^{たかなか} 高中 ^{ことみ} 琴望 . . . 4

作文の部（中学校2年生）入賞者

市長賞「正義という錯覚」 鶴嶺中学校 ^{おおわだ} 大和田 みどり . . . 5

議長賞「戦争に100%はあるのか」 鶴嶺中学校 ^{にわ} 丹羽 ^{のぞみ} 希美 . . . 6

教育長賞「「少しだけ」の積み重ね」 北陽中学校 ^{いしだ} 石田 ^{はづき} 葉月 . . . 7

平和都市宣言 8

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言 9

令和6年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

- 1 募 集 広報ちがさき5月1日号及び学校を通じて市内在住・在学の
小学校6年生を対象に「平和について」のポスターを募集。
中学校2年生を対象に「平和について」の作文を募集。
- 2 参 加 状 況 小学校6年生ポスターの部 8校 843人
中学校2年生作文の部 5校 513人
- 3 審 査 (1) 一次審査
・ポスターの部
6月11日(火) 午後3時30分から午後5時まで
市役所本庁舎4階 会議室1～3
・作文の部
6月4日(火) から6月11(火) まで
(2) 事前審査
・ポスターの部／作文の部
6月17日(月) から6月25日(火) まで
(3) 最終審査・賞の決定
・ポスターの部／作文の部
7月1日(月) 午前10時から午前11時30分まで
市役所分庁舎5階 D会議室
- 4 審 査 員 (1) 一次審査員
茅ヶ崎・寒川地区小学校教育研究会推薦教諭
茅ヶ崎・寒川地区中学校教育研究会推薦教諭
(ポスターの部2人・作文の部2人)
(2) 最終審査員
市長、市議会議長、教育委員会教育長、文化スポーツ部長、
教育指導担当部長、学校教育指導課長、多様性社会推進課長

ポスターの部（小学校6年生）

市長賞



小和田小学校

たかぎ しゅんた
高木 駿汰

議長賞



室田小学校

ざいい こと
材井 心都

教育長賞



小出小学校

たかなか
高中

ことみ
琴望

作文の部（中学校2年生）

市長賞「正義という錯覚」

鶴嶺中学校 おおわだ 大和田 みどり

世界で達成された事がない難解な課題は何か。それは、古代文明の解読でも、予言の解明でもなく「平和な世を創ること」だと思う。

人々は昔から「平和」という抽象的でいまだ未達成の目標を望んできた。研究には成功と失敗という対義語が存在する。では戦争の対義語は平和なのか。成功なしに失敗は存在しない。ならば、戦争がなければ平和も存在しないのか。そもそも「平和」とは何なのか。

一九四五年の八月、日本に原子爆弾が落とされ、多くの命が失われた。この出来事を初めて知った八歳の私は、「本当に八十年前の日本でこんなことが起きたのか。」と耳を疑った。人類が人類に向かって原子爆弾を投下したという事実に大きな無残さを覚えた。なぜアメリカはこんなことをしたんだと、ずっと思っていた。しかし、ある動画を見てから考えが変わった。それは、被爆者と原爆投下時に指揮をしたアメリカ人が意見を交流するものだった。私は日本側の意見を応援していた。しかし、「アメリカ人の多くを日本人に殺され、私の親友も日本人に殺された。」という意見から、自分はとても無知であるということが分かった。そして、狭い価値感で決めつけていたことが急に恥ずかしくなった。私は、日本が被害者となった歴史的事実について良く見聞きしていた。しかし、日本が加害者となった事例も多く存在することを知り、相手の立場になる重要性を知った。過去に起こした歴史的な過ちは今を生きる私達が悪い訳ではない。しかし、人として、過去の事実をよく理解し、譲歩し合うことが大切だと思う。そうでないと、相互理解という目標は永久に達成されず、平和な世は創れないだろう。

相手の立場になると、物事の原因や本質がわかる。しかし、私は、戦争を始めた人の気持ちには全くわからない。その人の欲望や富のために多くの命を犠牲にする事はあまりに理不尽だし、何があっても戦争を選択してはならないと思うからだ。しかし、戦争を止めようとして、平和を求める多くの人の考えには共感し、安心できる。私は政治家でも有名人でも、世界を動かす影響力もない。しかし、考えを共有し、学ぶことで、世界の輪の中に入っていけるような気がする。そしてそれが、戦争を無くし、平和へと近づく第一歩となると思う。勿論、戦争を無くすことだけが平和な世を創るとは限らない。世界には解決すべき社会問題が多く存在する。だから、何をもって平和とするかは一概には言い切れない。

これらを通じて、「平和」とは「日々を尊ぶことで自然に現れるもの」でないかと思う。それぞれの正義を理解し、歴史を学んで譲歩の考えを持つ。いつか人々が広い心を持った時、自然に平和な世が創られるのではないか。

「あなたはどのような世界を平和とするだろうか。」この質問を世界中の人に質問したら各々の異なる「平和」が返ってくるだろう。何故なら、「平和」は対義語も答えも存在しない、唯一無二の尊いものだと思うから。

議長賞「戦争に 100%はあるのか」

鶴嶺中学校
に　わ　のぞみ
丹羽　希美

「戦争に 100%はあるのだろうか」その疑問がこの作文を書こうと思ったきっかけである。学校の道德の授業で私はとある動画を見た。原爆開発者と、被爆者の対談の動画である。私はこの動画を見る前、お互いの主張は噛み合うのだろうか、原爆の開発者はどのような心情でこの対談に臨むのだろうか、とても好奇心をそそられたのを覚えている。そして、私の思っていた通り、原爆開発者と被爆者の主張や心情がまったく違う事が見て取れた。そこで私は不思議に思った。戦争が起こっているという事実は同じ事なのに、立場が違うだけでその人の考え方や心情が大きく変わってしまうのかと。確かに、私は戦争の話になった時、被害が大きい方、太平洋戦争で言えば原爆が落とされた日本の事しか考えなかった。つまり、相手国の事を考えていなかったのである。そして、この対談も同じ様に相手国のことを考えていれば主張が食い違うこともなかったのではないかと思った。そこで私は相手国、つまり原爆開発者の主張に耳を傾けてこの対談をもう一度聞いてみることにした。改めて聞いてみると、原爆開発者が対談で話していた内容で印象的な部分があった。それは「真珠湾を忘れるな」という言葉である。調べてみると、日本軍がハワイの真珠湾やマレー半島を奇襲した出来事だということが分かった。死者は約二千四百人にのぼり、航空機を百十八機完全に破壊したという、あまりにも悲惨な奇襲である。目には目を歯には歯を、日本も相手国に対し悲惨な出来事をしてきたのではないかと私は思う。

戦争は 100%相手が悪いなんてことは無いし、100%私達が悪いということでもない。被害の大きさに違いがあっても、戦争を起こし相手国の人々を苦しめた事的事实は変わらない。たとえ私達が壮大な被害にあったとしても、その裏での被害を見捨ててはならない。この対談を聞いて私はそう感じた。そして、この隙間を埋めるためには、少しの思いやりが大切なのではないかと思う。そうすれば少しはわかりあえる部分があるのではないか。私はそう考える。実際に対談では、「核兵器を使ってはならない」という主張は双方一致していたのだ。私は戦争を経験していないし、幸せな事にまだ大切な人を無くしたという経験もない。傍から見たらただ綺麗事を並べているかのように思えるだろう。だが、私の思いは正しい思っている。悲しみの裏にはまた悲しみがあるのだ。その気持ちをほんの少しでも汲み取ってあげられたら、ほんの少しでも思いやってあげられたら、この世界はより良い方向に向かっていくのではないか。私はそう信じている。

戦争に 100%は無いのだから。

教育長賞「「少しだけ」の積み重ね」

北陽中学校 いしだ はづき
石田 葉月

「平和」と聞いて初めに思い浮かぶ景色はどのようなものだろうか。思い浮かべた平和の景色は、勿論人によって様々だ。衣食住があって戦争が起きていない生活。と、思い浮かべる人が大勢いる中、戦時中の人々は衣服が一枚しか無くても、食料がほんの少ししか無くても、住まいが無くても、戦争さえ無くなれば「平和」だと思うのではないか。

一九三九年に起こった、第二次世界大戦は約六年もの間続いた。その六年の間、人々は空腹や恐怖に襲われ、誰もがひっそりと怯えながら暮らしていた。更なる悲劇は終戦の僅か九日前に起きてしまった。広島・長崎に、原子爆弾が投下され、およそ十一万人もの人が亡くなったのだ。これがどんなに辛い事か。当時生きていない私には計り知れたものではないが、爆風、熱線、放射線が町全体を襲いその中で死ぬ。そのような事があって良い訳が無い。

私達が軽々と口にして「最悪～」や「死ねよ」などの言葉を戦時中の人々に言ったらどう思うのだろう。可愛い服が着れて、食べ物も沢山あって、住む所もあって。そんなに恵まれているのにどうしてそんな事言うの。と必ず思うだろう。私も逆の立場であれば勿論そう思う。恵まれ過ぎている今の「当たり前」である生活がどんなに尊いものか。改めて考えると、軽々口にしていた自分の胸を痛めつけた。

恵まれ過ぎている「当たり前」のこの景色こそが平和の象徴であり、最も悪いなんて事ある筈がないのだ。戦争というものが起こる度に、命を落とす者が増えていき、誰もが苦しくなる。戦争をする事にメリットなどありはしない。こんな簡単な事、本当は戦争を始める者も心の奥深くで分かっている事であろう。自分が恵まれているという事に気づきさえすれば、戦争など起こしたがる者など居なくなる。「平和」であるこの日常を守る為の第一歩はなんだろう。私は今ある全ての事に感謝する事だと考える。当たりの事が当たりに出来る世の中こそが平和だと言えよう。

今私達が生きている、この場所、この時代の景色はどんなものよりも尊く、守らなくてはならない。その為には、当たり前が崩壊する前。まさに今、この日常の有難さに気づき伝播していかななくてはならない。まずは、今まで何気なく発していたマイナスな言葉を、「大丈夫！」や「出来る！」などに変換してみよう。そうすれば、少しだけ勇気が湧いたり、笑顔になったりする。その「少しだけ」が積み重なり、大きな勇気になれば、この世界は希望に満ち溢れた平和な世界になるだろう。だから私も、日々の努力を勇気にして積み重ね、伝播することを目標にしよう。

当たり前を当たり前だと思うことの出来る毎日を、笑顔で過ごせる世界になると信じ、私は永遠に願いつける。

平 和 都 市 宣 言

茅ヶ崎市は、正義と秩序を基調とする世界平和を希求している日本国憲法の精神にもとづいて、世界連邦の建設に同意し、世界の永久平和の確立と人類の福祉増進のために、全世界の人々と相結んで、この崇高な目的の達成に努力する平和都市であることを宣言する。

1962年12月19日 茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言

茅ヶ崎市は、１９６２年１２月１９日世界人類共通の願いである真の恒久平和を希求し、その実現に努めるため、平和都市宣言を行った。

しかるに地球上では今なお核兵器の増強はとどまることなく、全人類の生存に深刻な脅威をあたえている。

よって、再び全市民の名において次の宣言をする。

日本国憲法に基づき国是である非核三原則を遵守する国とともに、地球上のすべての自然を破壊し、全人類を滅亡させるにたるあらゆる国の核兵器の使用を全面禁止する国際世論を喚起するため、茅ヶ崎市はここに核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

１９８５年１２月２４日 茅ヶ崎市

令和6年度 「平和について」ポスター・作文コンテスト入賞作品集

令和6（2024）年8月発行

第1刷 70部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 文化スポーツ部多様性社会推進課

〒253-8686

神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号

電話 0467-81-7150

FAX 0467-57-8388

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和6年5月31日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままに編集を行っています。